

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

<h4>1 一人一人の児童生徒の尊重</h4> <p>学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。</p>	<h4>2 友達への思いやり</h4> <p>子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。</p>	<h4>3 道徳・心の教育の充実</h4> <p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）</p>
--	---	--

【学校から】「一人一人の児童生徒の尊重」については、「そう思う」と回答している児童が70%と突出していることは、評価に値する。昨年度より、さらに8ポイント上がっている。また、「どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」という保護者の割合も9%と昨年度より2ポイント減少している。今後とも保護者との連携をていねいに図り、信頼関係を構築できるように努めていきたい。「友達への思いやり」では、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」が、保護者、児童、教職員ともに95%を越えている。ただ、「そう思う」とした教職員は7%（昨年度10%）であり、保護者、児童に比べ大きな差が見られた。学校生活の中で児童の多様な姿を見ている教職員は、児童の友達への関わりについてさらに改善していく必要性を感じていることがうかがえる。「道徳・心の教育の充実」については、概ね良好な結果であったが、「そう思う」の割合が高まるように日々の教育活動を充実させていきたい。

②確かな学力を育む教育の推進

<h4>4 意欲的な学習態度</h4> <p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p>	<h4>5 授業力向上</h4> <p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p>	<h4>6 ICT活用</h4> <p>先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。</p>
---	--	---

【学校から】「意欲的な学習態度」については、保護者、児童ともに、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」が90%を越え、教職員は100%であった。「授業力向上」においても、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」が保護者で95%、児童で94%と昨年度よりポイントの上昇が見られ、研究指定制としての実践が着実に成果として表れてきていることがうかがえる。ただ、「意欲的な学習態度」「授業力向上」とともに、「どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」と回答した児童が30人～40人程（4年生以上）いることを謙虚に受けとめ、その原因を見極めながら、さらに児童理解を根拠に据えた実践を充実させていきたい。また、「ICT活用」に関しては、保護者、児童、教職員ともに、昨年度より大幅な上昇が見られた。情報機器の環境整備とともに、教職員間でその活用法の共有が図られ、授業で効果的に活用されていることの表れととらえられる。確かな学力を育む教育の推進に関しては、どの項目も教職員だけではなく保護者、児童にもポイントの上昇が見られ、取り組みの確かさの表れととらえられる。

③健やかな体を育む教育の推進

<h4>7 健康づくり</h4> <p>子どもは、好き嫌いがなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。</p>	<p>【学校から】児童、教職員は、昨年度に比べポイントの低下が見られた。特に、教職員においては、「そう思う」が0%であり、保護者、児童との回答結果の違いが際立った。子どもの食生活、基本的な生活習慣、情報社会の中での生活等に関して、教職員の方が保護者、児童より強い危機意識を持っていることがわかる。このギャップを埋めていくための方策を検討していく必要がある。</p>
--	--

①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実 ②特別支援教育の推進

<h4>8 児童生徒理解</h4> <p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようと努めていると思いますか。</p>	<h4>9 いじめや問題への対応</h4> <p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p>	<h4>10 学校の支援体制</h4> <p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p>
---	--	--

【学校から】「児童生徒理解」「いじめや問題への対応」において、教師の評価に比べ、保護者、児童の評価が厳しいという近年の傾向は、今回の結果でも見られるが、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」が、保護者、児童ともに3～4ポイント上昇している。児童へのていねいな関わり・聞き取り、保護者への情報提供、家庭との連携など学校の取り組みへの理解が少しずつ広がってきていることが感じられる。「特別支援教育の推進」についても、ここ数年は、教職員に比べ保護者の評価が低いという傾向が続いていたが、保護者のポイントが上昇し、教職員とほぼ同じ回答結果となった。機会をとらえた特別支援教育に関する啓発や日々の保護者との面談の積み重ねが、保護者の理解へとつながっていると考えられる。

①子どもたちの身近な安全対策の充実 ②最適な学習環境の整備

<h4>11 安全と事故防止</h4> <p>学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。</p>	<h4>12 施設・設備の安全管理</h4> <p>学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。</p>
---	--

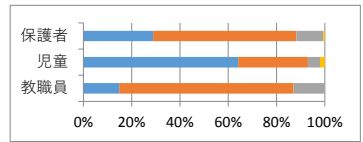
【学校から】「安全と事故防止」については、昨年とほぼ同じ結果であるが、教職員のポイントに若干低下が見られた。また、教職員と児童の「そう思う」の結果に大きな開きが見られる。校内でのけがの発生が多い状態も続いているため、実生活につながる指導のあり方を探っていく必要がある。

【学校から】「施設・設備の安全管理」については、保護者の「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」が上昇し90%を超えたが、教職員は10ポイント近く低下が見られた。施設・設備の改善箇所を教職員間で共有し、計画的に環境整備を進めていかなければならない。

③家庭・地域社会との連携強化

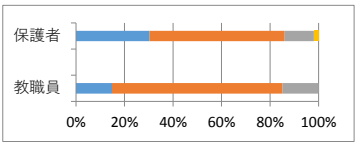
13 教育方針・目標の理解

学校は、教育目標や教育方針などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。



14 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

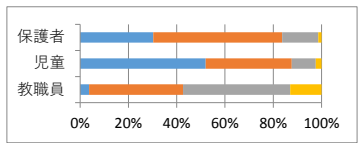


【学校から】「教育方針・目標の理解」「家庭や地域との連携協力」とともに、保護者、児童は「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」が増したが、どちらの項目ともに、保護者のプラス評価が未だ90%に満たないことを重く受けとめる必要がある。教職員は、両項目ともに、10ポイント程低下が見られた。新学習指導要領の柱である「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、教職員で知恵を出し合いながら、さらなる保護者・地域との連携のあり方を探っていくかなければならない。地域人材、施設・環境の把握を細かく行い、教育課程に組み込んでいくように努めたい。

⑧本校の教育

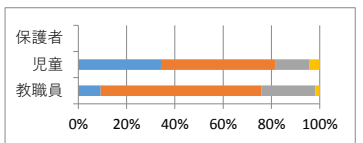
15 3つの「あ」の推進

子どもは、自分から進んで明るいあいさつをしていると思いますか。



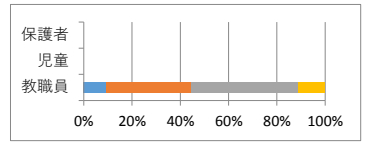
16 3つの「あ」の推進

子どもは、進んで無言排除を行っていると思いますか。



17 働き方改革

勤務時間外の在校時間を縮減できるように、働き方改革を意識して職務を進めていますか。



【学校から】アンケートでは、「あいさつ」に関する項目が、児童・保護者と教職員の意識の差に最も大きな開きがあった。教職員の数値が低いのは、「進んで」「明るく」という理想の姿を求めていることと表れとも受け取れる。あいさつの大切さ・意義について、場をとらえた効果的な指導によって考えさせていくとともに、身につけさせたいあいさつの姿を児童に明確に示していくことも必要であるように感じる。「無言排除」に関しては、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」が児童81%、教職員76%であった。「そう思う」に限って見ると、教職員は9%であり、期待している姿の実現までには至っていないことがうかがえる。「働き方改革」については、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」が44%という結果であった。研究指定校としての業務により、勤務時間を過ぎての残業が多くなったことが要因といえる。今後、在校時間の縮減につながるアイデアを出し合いながら、働き方改革を進めていかなければならない。

来年度の具体的な取り組みについて

- 児童一人一人の個性の把握に努め、教職員と児童、また児童相互の心通わず温かいふれあいを通して、豊かな心の育成を目指していく。道徳の教科化における授業改善の柱である「考える道徳」「議論する道徳」へのさらなる転換を図れるように、校内研修等で研究を深めていくようにする。
- 2年間の研究指定校としての実践を通して、授業改善等において成果が表れてきている。この取り組みの成果と課題を整理し、来年度へつなげていかなければならない。特に、児童の対話の質を高めるとともに、問いを核とした主体的な学習活動が確かな学力の向上につながるようにする。という視点を大切に研究を継続させていきたい。
- 児童の心身の健康づくり、あいさつを含めた生活習慣等に課題が見られる。日々の体育指導・保健指導、生徒指導を組織的・計画的に実施し、安全で明るく健康的な生活が送れるようにする。生活指導に関しては、教師側の効果的な働きかけを行うとともに、児童会活動ともタイアップし、児童の主体的で創造的な発想を生かしながら、児童が自分たちの生活を自分たちの手で高めていけるような力を育てていく。また、保護者とのさらなる連携を図りながら、生活習慣の確立、情報モラル等に関して合同で学べるような場を設けていきたい。
- いじめ・不登校等気になる事案については、さらに危機意識を高め、組織としての素早い対応ができるように学校としての体制を整えていく。また、サポート委員会（支援が必要な児童に関する情報を共有する会）を中心に、きめ細やかな校内支援体制を充実させ、関係機関との連携を積極的に図りながら、一人一人のニーズにあった支援を進めていく。
- 次期学習指導要領の趣旨に沿った教育課程を編成し、積極的に地域人材・素材をカリキュラムに組み込んでいく。また、児童を中心に置いた地域・家庭との効果的な連携のあり方を探り、実践に移していく。

学校関係者評価

- 授業を参観させていただき、楽しそうに授業を受けている児童の姿をたくさん見ることができた。教師が一方的に教えるのではなく、児童同士の対話が活発になされていた。研究の成果が表れてきている。
- 「健やかな体を育む教育」や「進んで明るいあいさつ」など、保護者・児童と教職員の評価に大きな差が見られる項目については、保護者との連携も図りながら効果的な取り組みを進めてほしい。
- あいさつについては、地域でのあいさつも個人差が見られる。知らない人には関わらないように、という時代背景もあるのかもしれない。地域社会のつながりが希薄になっていることも関係しているように感じる。
- 押しボタン信号のある横断歩道で、左右の確認の不十分な児童を見ることがある。安全教育については、校内の生活での課題が出されたが、交通安全指導の中で、この問題も、ぜひ取り上げてほしい。
- 研究発表会に向けて、先生方が夜遅くまで仕事をされていることは承知しており、頭の下がる思いである。ただ、身体を壊されないか心配である。組織として取り組めることを見出して、働き方改革を推進してほしい。